日本の展望委員会「地球環境問題分科会」（第４回）議事要旨

1.　日時　平成 21 年 3 月 10 日（火）　10:00-12:00
2.　場所　日本学術会議６階　６-A（2）会議室
3.　出席者　河野長（委員長）、鷲谷いづみ（副委員長）、中島映至（幹事）、高村ゆかり（幹事）、淡路剛久、岡田清孝、前田正史、松井孝典
　欠席者　植田和弘、佐藤薫、佐藤文彦、村上周三、安成哲三、山地憲治、山本眞鳥
4.　議題
　(1) 前回議事要旨（案）の確認
　(2) 分科会役員について
　(3) 起草分科会に提出する報告案骨子について
　(4) 今後の進め方について
　(5) その他
5.　資料
　資料１　前回議事要旨（案）
　資料２　委員名簿
　資料３　起草分科会あて報告書骨子原稿（2009/03/10）
　資料４　「日本の展望」作成の作業について（日本の展望委員会、2009/01/07）
　資料５　地球環境分科会検討事項（2009/02/06 改訂）
　参考１　地球温暖化問題にかかわる知見と施策にかかわる分析委員会報告「地球温寒化問題解決のために―知見と施策の分析、我々の取るべき行動の選択肢―」（2009/03/10）
　参考２　農学委員会「特に環境問題の課題について」

６．議事

(1) 前回議事要旨（案）の確認

・前回議事要旨を確認し、採択した

(2) 分科会役員について

・分科会構成員が決まったことを受けて、追加的な役員を選任したい旨、委員長より提案があり、副委員長に鷲谷いづみ氏、もう一人の幹事に高村ゆかり氏を選任した。

(3) 起草分科会に提出する報告案骨子について

・起草分科会に報告する資料は、今回の会合の資料３くらいの分量と思われる。加えて、前回の委員会から指摘のあった説明する資料をつける必要があろう（河野）

・起草分科会に報告する事項については、もれはないのではないか。文書のブラッシュアップをお願いすれば当面大丈夫ではないか（前田）

・温暖化に関する記述については、課題委員会の報告書を参照する（中島）

・横断的な相互連関をどのように整理していったらよいか。人間地球環境問題シュミレータのようなものをモデルで作っていけないか。相互連関性が見えるもの、使えるものはないか（淡路）

・定性的なものは提示できるかもしれないが、不確定なものを多く取り入れることになりシュミレータまで作成するのは難しい（松井）

・50 年くらい先の予測、人間活動をどう変えていったらよいか。ミレニアム生態系評価がそれをしている。シナリオは、政策の典型的なものを入れて作っている。一部はモデルも利用して、4 つのシナリオで。生態系サービス、Human well-being で評価。国連主導。生物多様性の現状と人間活動を指標で評価することが生物多様性条約のもとでは行われている。特に欧州。D(river) P(ressure) I(mpact) S(ituation) R(esponse)モデル。評価の活動がばらばら（鷲谷）

・資料 3 の p.4 のパラ 2 にかかわるもの。相互連関に焦点を置くことが必要（淡路）

・人間の価値観、倫理的な意識をとりこまないといけないがそれはできない（松井）

・相互連関は重要。その解明と対処に困難さがあることも含めて記載してはどうか。全体の構成について、環境悪化の現象面に関する項目と、その原因となる特に人為的要因に関する項目と、問題への対処に関する項目が、含まれているように思うので、見せ方として整理して提示しては（高村）

・人口問題の項目に、エコロジカルフットプリントという用語も入れたら（鷲谷）

・生態系保全では、農業生態系の問題がよりクローズアップされるか。里山イニシアティヴ。土地利用の生態系、温暖化への影響も大きい。科学的知見を整理していく必要。食糧と持続可能な生態系の利用が問題となっている（鷲谷）

・学術会議として日本の政府に対する提言か？（松井）

・世界的な学問の広がりをふまえて、日本の学術の方向性を出す。副次的に日本政府にも提言。あくまでの学術的長期展望を示す（河野）

・日本としては、これをやるというのがないと。日本の学術がリードするテーマが不明確（松井）

・項目を絞り込むのは、今回は時間が短いため難しいだろうと思っている。しかし、総合学術会議に出すということであれば本気で絞らないといけない。これは起草委員会の作業か。こういうことを 6 年ごとに繰り返すことが考えられており、将来においてテーマが明確にされることを期待する。（河野）

・学術会議自身が変わらないと。地球環境問題は学術会議が総体として方針をもたないと。個別の問題を整理し、日本として何をやっていくかを整理していく（松井）

・B-4（科学技術基本計画）策定への意見に、淡路先生が指摘された相互連関の解明といったものは盛り込めるのではないか。相互連関の統合的アプローチの必要性、予測に資するような科学的研究の必要性（鷲谷）

・工学系は、うまいキャッチフレーズを使って、国への緊急提言に入れてほしいと言っている。本分科会もうまく提言を出したい（中島）

・人文・社会科学系の研究参画を位置づけるような視点が必要（鷲谷）

・人間圏を中心に研究していくという立場をはっきりさせる（松井）

・funding と評価がうまくできていない。研究テーマ設定をある程度トップダウンでできる必要がある（前田）

・科学技術基本計画策定への意見については、うまいキャッチフレーズが必要。温暖化、生物多様性を項目の候補としてあげておいて、文章ができればそれらを出す（河野）

・①地球温暖化、②生物多様性、③統合的取り組みの 3 つくらい出すのが良い（松井）

・分科会からは項目を出すのみ。あとは起草委員会にゆだねられる。①地球温暖化（中島）、②生物多様性（鷲谷）、③統合的取り組み（淡路）に文案をお願いしたい。1 項目が半ページくらい。その後、委員長、副委員長、二人の幹事を中心にまとめるということにしたい（河野）

（4）今後の進め方について

・8 月末までに報告書ができていることを要求されている。それより前、7 月中ぐらいにできるようにしたい。報告書は検討項目をふくらませていったらできるのではないか。会合を開くのがなかなか難しいので、メイルベースでかなりのことをやらざるをえない。資料 3 の骨子を基礎として拡充し、文献など裏付け資料も合わせて充実させる。そのような感じでいかがか（河野）

・参考資料の中にある、温暖化問題の報告、農業委員会の環境問題課題ペーパも参考にする（河野）

・温暖化問題の報告は、提言というよりも、施策に役立つ重要なメニューを載せた。その要旨をまとめる形で日本の提言に出す（中島）

・対策費用と、影響のコストの研究は、研究者がやるべき課題。メニューを示すだけでもできていない（中島）

・地球システムとして把握する必要性、統合的研究の必要性を言及して。日本として大切なことを一言、二言 6 月くらいまでに書いて、分科会の合意ができれば載せる（鷲谷）

・重点をどうするか、やるのであればどうするかを決める決め方が大事（松井）

・現状の科研費と事業費の割合は適切か。研究費配分に当たって選択と集中が強調されすぎて、基礎科学の足腰が弱くなっていないか（中島）

・「選択と集中」の問題についても入れた方がよいのでは（中島）

・資金配分決定時に研究者が関与できるしくみになっていない（松井）

・ある種の提言を分科会から起草委員会に説得的に出し、内閣に出してもらう可能性を探してはどうか（河野）

（4）-1　確認事項

・報告は、資料 3 をベースに書き足す作業

・総合科学技術会議に出す文書については、①地球温暖化（中島）、②生物多様性（鷲谷）、③統合的取り組み（淡路）、④選択と集中（松井）を候補とし、時間内に文案ができたものを提出する。（河野）

・4 月から 7 月までに二回くらい分科会を設定したい（河野）

・委員長、副委員長、幹事二人の日程をまず日程調整してもらってから、みんなに日程調整をしてほしい（淡路）

（5）その他

・特になし

以上